

テツカエデ	<i>Acer nipponicum</i> H.Hara subsp. <i>nipponicum</i> var. <i>nipponicum</i>	準絶滅危惧
		カエデ科
選定理由	生育地が極めて限られているうえ、個体数が非常に少なく、更に減少すれば個体群の維持が危うくなり、絶滅する可能性が出てくる。	写真(高橋弘)
形態の特徴	葉は大きくて浅く5裂し、質は厚い。葉柄は長さ8-17cm。花序は複総状で下垂し、1本の主軸に短い小枝が多数出て、それぞれの小枝に普通1-2個の花がつく。大部分の個体は1つの花序には雄花か両性花のどちらかしかつかないが、一部の個体は雄花と両性花が混在する。翼果は鋭角からやや鈍角に開く。	
生態的特徴	花期は7-8月。	
分布状況	日本に固有で、Yamazaki(2000)によれば本州の近畿以西と九州北部に分布するとされている。岐阜県では県南の中部西端以西にある。	
減少要因	開発や森林伐採によると思われる。	
保全対策	生育地の保全。	
特記事項		
参考文献		

文責: 高橋弘